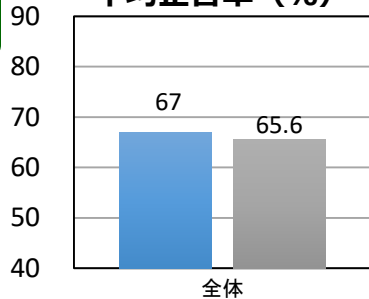
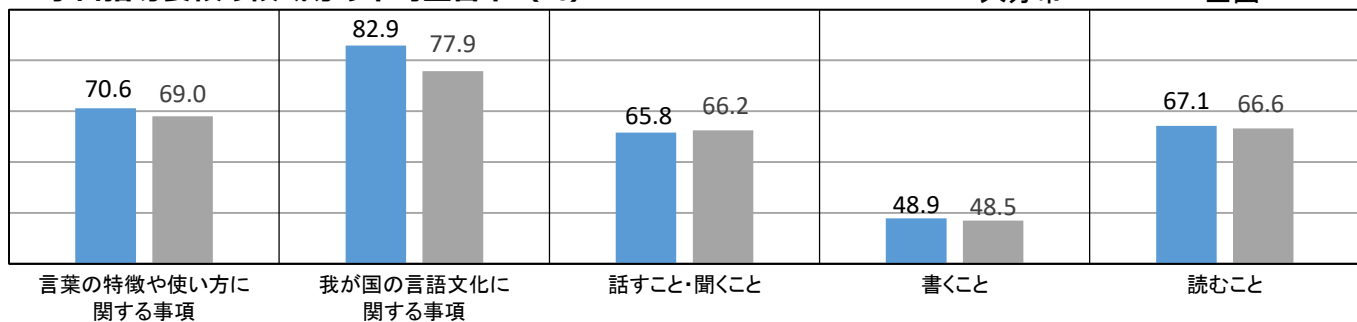


調査結果

平均正答率（%）



学習指導要領の領域等の平均正答率（%）



分析Ⅰ  
話すこと・聞くこと 本調査問題1・4

互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られる。

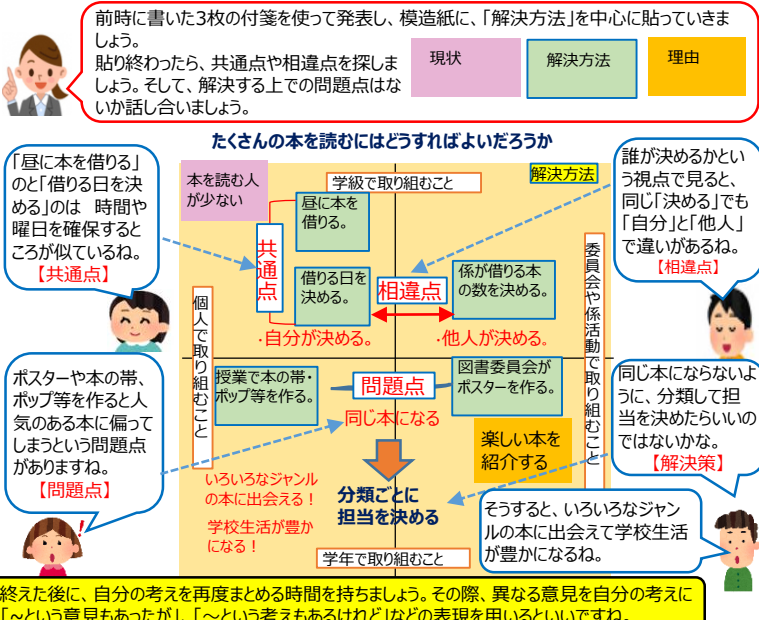
◆考察◆

話し合いを通して自分の考えをまとめる際には、立場や考え方が異なる人同士で話し合い、様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめさせることが大切である。指導に当たっては、付箋等を活用した話し合いを行い、互いの意見を整理させ、自分の考えに生かせるようにすることが必要である。

授業アイデア例

単元名 よりよい学校生活のために（光村図書5年）

- 第一次
- 単元の見通しをもつ。
  - 学校生活の中から議題を決める。（例）-本を読む人が少ない。-挨拶ができていない。
- 第二次
- 自分の立場を明確にする。【3枚の付箋】（現状・解決方法・理由）
  - 話し合いの仕方を確かめ、進行計画を立てる。（司会・進行役等の役割を決める）
  - 計画に沿って、グループで話し合い、自分の考えをまとめる。（共通点や相違点、利点や問題点を明確にしておく）（本時）
- 第三次
- 話し合いの中でよいと思ったことを伝える。



分析Ⅱ  
書くこと 本調査問題3・2

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題が見られる。

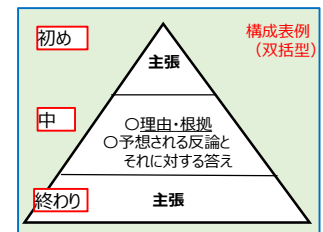
◆考察◆

自分の文章のよいところを見付ける学習では、目的や意図に応じた文章の構成や展開が明確になっているかなどの観点を持たせることが大切である。指導に当たっては、互いの書いた文章を読み合い、文章の構成や理由や根拠、予想される反論についての考え等に注目させ、具体的に感想や意見を述べ合うことが必要である。

授業アイデア例

単元名 あなたは どう考える（光村図書5年下）

- 第一次
- 単元の見通しをもつ。
  - 意見文の題材を決める。
- 第二次
- 「読み手が納得する意見文」を書く。（双括型）
  - 教科書の2つの例文から意見文を書く時の工夫を見つける。（文章の構成や展開）
  - 読み手が納得する主張の理由や根拠を考える。（理由・根拠：自分の体験・見聞き・引用・アンケート・インタビュー等）
  - 自分の意見文の構成表（ピラミッドチャート）を作る。（予想される反論とそれに対する答え）
  - 下書きをして、見直しをする。
- 第三次
- 読み合って、感想や意見を伝える。（本時）



【構成】

- 説得力のある構成を考える。
- 【初めと「終わり」】に自分の主張（双括型）
- 【初めに】自分の主張（頭括型）
- 【終わりに】自分の主張（尾括型）

本調査問題のような双括型の構成にするためには、ピラミッドチャートを活用することも効果的です。「初め」の段落では、主張を簡潔に、「終わり」では、より具体的な主張をすることを意識できます。

構成表をもとに下書きができたなら、互いの意見文を「構成」や「展開」の点でよいところを伝え合います。

●初めと終わりに自分の考えを主張していて説得力がある。（双括型）

○理由・根拠

- ・さしほい委員の活動
- ・南さんの話
- ・そうじ用具の使い方
- ・引用

●運動アンケート

○低学年インタビュー

○予想される反論についての考え

運動が苦手な人もいるのではないかな。

自分の文章のよいところ

自分の体験 インタビュー アンケート

自分の体論を展開しているね。

インタビュー インタビュー

根拠としてアンケート結果を入れているのが説得力があるね。

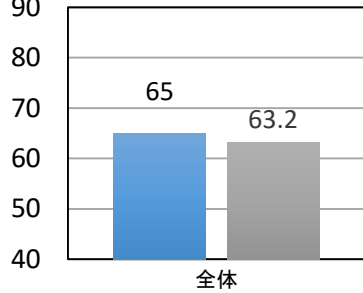
伝え合いを終えて、自分の文章のどこがよいところだと思えましたか。

私の文章のよいところは、予想される反論に対しての自分の考えを書いたところです。

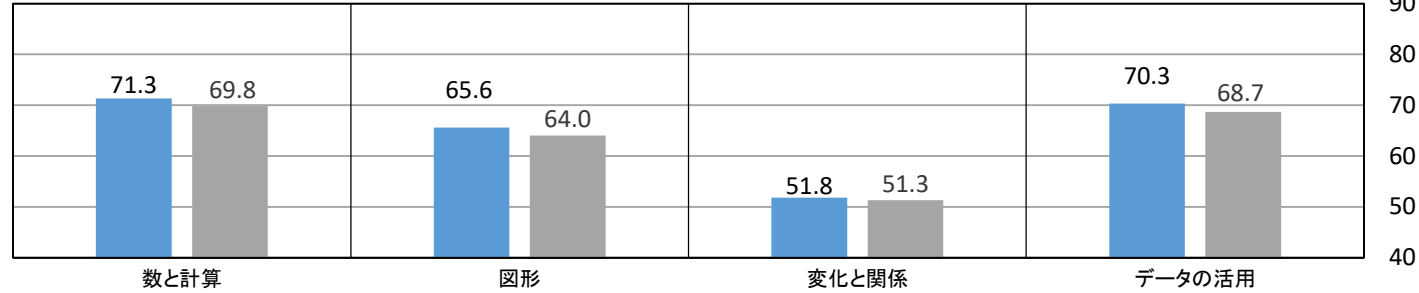
本時では、第二次の学習を生かして、自分の意見文の構成や展開の工夫を伝え合うことが大切です。

調査結果

平均正答率（%）



学習指導要領の領域等の平均正答率（%）



分析Ⅰ  
変化と関係 本調査問題2-(4)

伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方を説明することに課題が見られる。

◆考察◆  
変化と関係の学習では、伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するか着目し、未知の数量を求めさせることが重要である。指導に当たっては、表や式などを用い関連付けながら、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見いだし、未知の数量の求め方を説明させる活動が考えられる。

授業アイデア例

果汁が20%ということは、果汁が20mLのとき、飲み物の量は、100mLだ。

比例しているのかな...

【問題】  
オレンジの果汁の割合が20%で、果汁の量が、160mLのときの飲み物の量は、何mLになるか。

課題 比例の考えを使えば、果汁の量が160mLのときの飲み物の量が分かるか。

POINT

全体で考えを出し合った後、自分の考えとは違う、友だちの考えを説明させる活動を通して、自分の考えとの共通点を気付かせましょう。

果汁の量と飲み物の量は、どのように変化しているのでしょうか。表や式などを結びつけながら、グループで考えましょう。

【表の考え方の説明】

果汁の量が2倍、3倍になると、飲み物の量も2倍、3倍になる。だから、果汁の量が8倍だったら、飲み物の量も8倍になるので...

【言葉の考え方の説明】

果汁の量が20mLから、160mLになると8倍なので、飲み物の量も8倍になり...

【式の考え方の説明】

$160 \div 20 = 8$ で、8倍だから、 $100 \times 8 = 800$ で、答えは、800mLになるね。

共通する考え方を矢印で結び付けたり、同じ色にしたりするなど、視覚化することが大切です。

表で考えました。

果汁の量(mL)	20	40	60	...	160
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	800

式で考えました。

果汁の量  $160 \div 20 = 8 \rightarrow 8$ 倍  
飲み物の量  $100 \times 8 = 800$   
(答) 800mL

言葉で考えました。

果汁の量が20mLから160mLになると8倍なので、飲み物の量も8倍になり、800mLとなる。

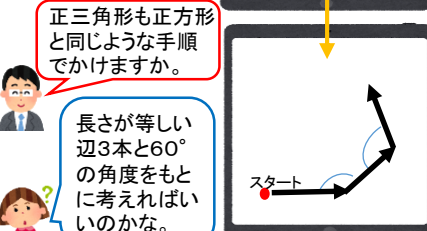
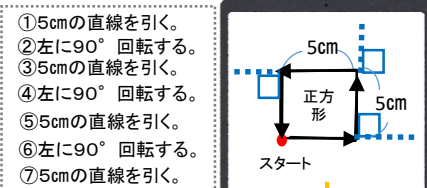
分析Ⅱ  
図形 本調査問題4-(1)

回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成について説明することに課題が見られる。

◆考察◆  
図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察させるようにすることが重要である。指導に当たっては、プログラムでかこうとした正三角形をかくことができなかった場面において、回転する角の大きさに着目させ、角の大きさを柔軟に捉え、正しい命令について考えさせる学習活動が考えられる。

授業アイデア例

アプリのスクラッチで、正方形をかいてみましょう。



正三角形も正方形と同じような手順でかけますか。

長さが等しい辺3本と60°の角度をもとに考えればいいのか。

あれ？ かけないな。角の大きさが60°より大きくなっている。

角の大きさを測ったら、120°だったよ。

60°回転したのに、なぜ、正三角形はかけないのかな。  
考えを書こう。

POINT

ワークシートや分度器を手掛かりに考えさせたり、友だちの考えを聞いたりする時間を十分に確保して、考えさせましょう。

60°回転したのに、なぜ、正三角形はかけないのでしょうか。

①60°と120°だから、一直線の角度180°が関係しているのかな。

②分度器で、たしかめよう。

③図をかいて確かめてみると...

④左に60°回転すると、内側の角度が120°になるから、かけなかったんだね。

⑤だったら、左に120°回転すれば、内側の角度は、60°になり、正三角形がかけられる。

60°と120°を合わせると、一直線の180°になることを手掛かりに、角の内側と外側という観点を持たせることが大切です。

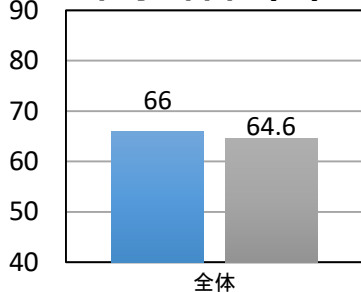




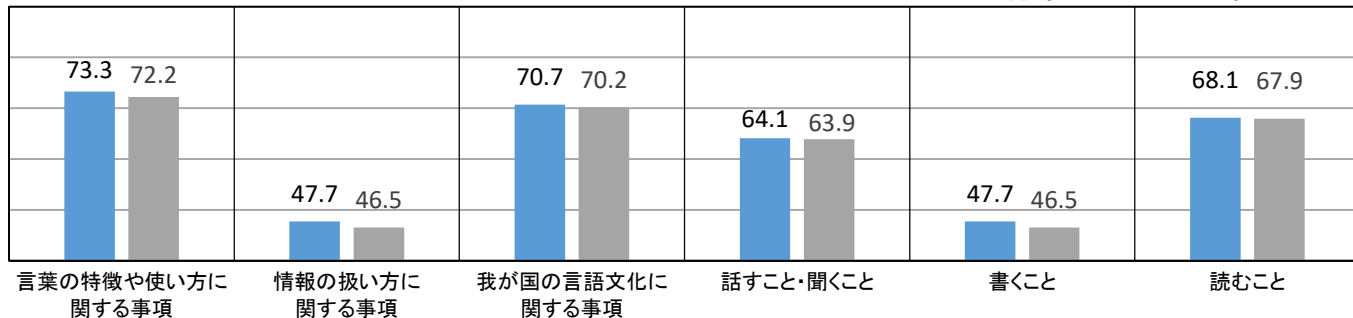


調査結果

平均正答率（%）



学習指導要領の領域等の平均正答率（%）



分析Ⅰ

言葉の特徴や使い方 本調査問題3-2

事象や行為、心情を表す語句について理解することに課題が見られる。

◆考察◆

事象や行為、心情を表す語句について理解する学習では、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉え、その語句が文章の中で果たしている役割を考えさせることが大切である。指導に当たっては、文章で使われている語句の意味を確認させるとともに、文章の中で他の表現と関連付けて考えさせることが必要である。

授業アイデア例

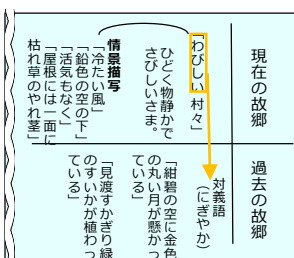
言語活動：これからの時代を生きていく自分へ、登場人物の立場から手紙を書こう

第一次

- 単元の見直しをもち、作品が書かれた時代背景が分かる動画を視聴する。
- 本文を通読し、初発の感想を書き、交流する。



前時の人物の様子の変化を捉えたことを踏まえて、本時は故郷の描写について注目し、その変化を捉えましょう。



「わびしい」という言葉は聞いたことがあるけど、意味は？と聞かれたら、なんと説明すればいいかなあ...



「寂しい」という言葉と近い意味なんじゃないかな。



文章中に「わびしい村々」の様子を表現している部分を探したら、意味が分かるんじゃない？



現在の故郷の描写がたくさんある。情景描写も踏まえて書き出していくと、「わびしい」という言葉がイメージできるね。



国語辞典には、「ひどく物静かでさびしいさま」と載っていたよ。文章中の描写でも、その様子がたくさん表現されているね。



「わびしい」の対義語を調べると、「にぎやか」と載っていたよ。確かに、過去の故郷の描写を抜き出していくと、にぎやかな故郷が描かれているね。



語彙力を高めるために、1つの語句の意味について、辞書的な意味だけではなく、文章中の他の表現との関係を意識させることが大切ですね。

第二次

- 過去と現在の人間関係について読み取る。
- 故郷の変化について読み取る。
- 「悲しむべき厚い壁」、最終場面の情景描写について考える。

第三次

- 現在の社会情勢についてデータを確認する。
- 登場人物の立場で手紙を書く
- 手紙を読み合い、感想を伝え合う。
- 単元の振り返りを行う。

分析Ⅱ

読むこと 本調査問題3-4

場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することに課題が見られる。

◆考察◆

場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する学習では、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行わせることが大切である。指導に当たっては、言葉による見方・考え方を働かせ、本文中の言葉や表現、描写に注目させることが必要である。

授業アイデア例

言語活動：場面の展開や人物描写を関連付けて、「エーメール」の立場で日記を書こう

第一次

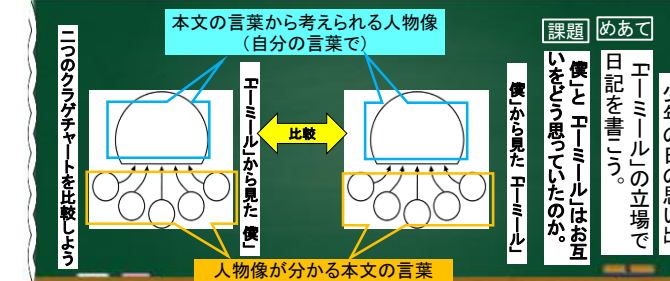
- 単元の見直しをもち、本文を通読する。初発の感想を書き、交流する。



単元のゴールである「エーメール」の立場で日記を書くために、それぞれの登場人物の視点からの人物像をまとめ、比較しましょう。

第二次

- この作品が額縁構造であることを確認し、前半部分と後半部分の登場人物の人物相関図を作る。
- 場面展開や人物描写に着目して、「僕」の心情の変化を読み取る。
- 「僕」から見た「エーメール」の人物像、「エーメール」から見た「僕」の人物像をクラゲチャートにまとめ、比較する。…本時



本文では、「僕」の視点から書かれている「エーメール」なので、視点を換えることで、人物描写や場面の展開について考えを深めることができたね。

第三次

- 「エーメール」の視点で、日記を書く。
- リライト作品を読み合い、互いの人物像について感想を伝え合う。
- 単元の振り返りを行う。



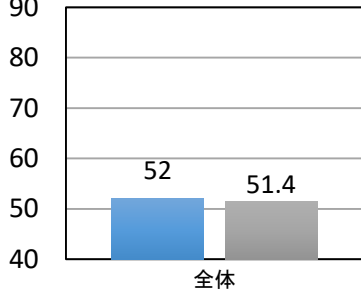
クラゲチャートを説明させる際にも、「本文中の○○という言葉から〜という人物だと考えた」という話型にさせるなど、言葉による見方・考え方を意識させることが大切です。



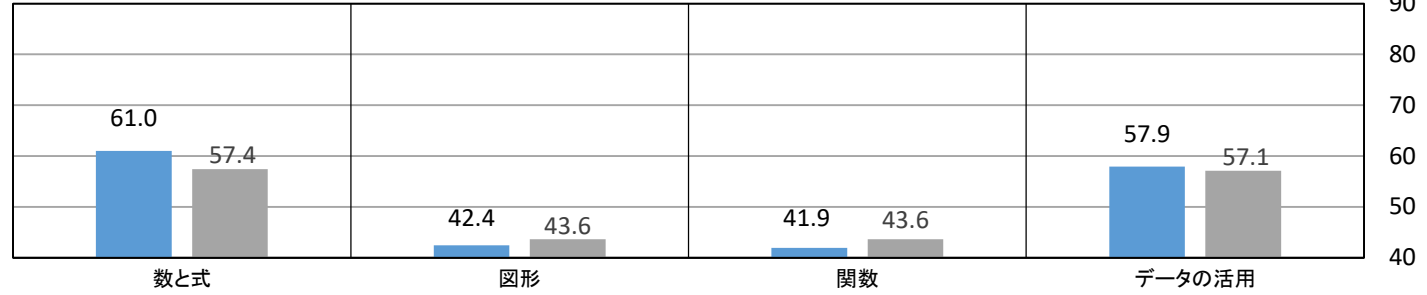
タブレットのロイロノート・スクールでも思考ツールを活用することができます。互いの考えを比較したり交流したりすることもできるので、積極的に活用しましょう。

調査結果

平均正答率（%）



学習指導要領の領域等の平均正答率（%）



分析Ⅰ

C 関数 本調査問題8（2）

問題を解決するための方法や手順について、数学的に説明することに課題が見られる。

◆考察◆

関数の学習では、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、考察することが大切である。指導に当たっては、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考えさせることが必要である。

授業アイデア例

**問題**  
2分間を計る砂時計を作るため、砂が落ちきるまでの時間を、砂の重さを変えながら確かめたところ、以下の表のとおりになった。

重さ $x$ (g)	0	25	30	40	75
時間 $y$ (秒)	0	11.9	14.4	19.2	36.0

2分間を計るために必要な砂の重さは何gだろうか。

グラフに表してみました。

式で考えました。

比例だと仮定して、比例定数を求めると、  
 $11.9 \div 25 = 0.476$   
 $14.4 \div 30 = 0.48$   
 $19.2 \div 40 = 0.48$   
 $36.0 \div 75 = 0.48$   
 だいたい0.48だから、 $y = 0.48x$

①砂は一定のスピードで落ちるから、重さと時間は比例の関係になると思うけど…

②でも表を見ると、 $x$ の値が2倍、3倍…になってないから、比例かわからないよ。

③関数の特徴を調べるために、表の他にどんな方法を学習しましたか。

④グラフです。原点を通る直線になるか、確かめてみたいですね。

⑤式に表して、比例の関係がどうか、確かめたいです。

なんとなく原点を通る直線になりそうだけど…

2分間なら、たぶん250g~260gぐらいかな？

予想と答えがだいたい一致しています。必要な砂の重さは250gと言えそうです。

表を縦に見たんですね。式から比例していると言えそうですね。

式に $y = 120$ を代入すると、 $x = 250$ になります。

グラフの考えからの予想と、式の考えで求めた答えを比べてみましょう。

予想と答えがだいたい一致しています。必要な砂の重さは250gと言えそうです。

表、グラフ、式のそれぞれの特徴を理解させ、場面に応じて、数学的表現を適切に選択できるように指導しましょう。

分析Ⅱ

B 図形 本調査問題9（2）

ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明することに課題が見られる。

◆考察◆

図形の学習では、数学的な推論（帰納、類推、演繹）の必要性と意味及びその方法を理解させ、必要な場面に応じてそれらの推論の方法を適切に選択して活用できるようにさせることが大切である。指導に当たっては、推論を進めるに当たり何を根拠として用いるのか、どのように用いられよいかなどについて見通しをもたせたり、自分なりに表現した証明を改善したりする活動を取り入れることが必要である。

授業アイデア例

**問題**  
下の図形は、長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFをかき、点Eと点B、点Bと点Fを結んだものです。  
 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ 、 $\angle EAB = 150^\circ$ のとき、長方形の辺の長さを変えても、常に $\angle EBF = 60^\circ$ であると証明しなさい。

本当に辺の長さを変えてもいつも $60^\circ$ になるの？

動画で見てみましょう。

なんだか不思議だね！ どうして $60^\circ$ のところだけ変わらないのかな？

他にも、角度が常に変わらない角はありませんか。また、角度が変化しても、等しくなる角はどこどこでしょうか。図にかき込んでみましょう。

$\triangle ABE$ と $\triangle CFB$ の○と×の印の角の和は、それぞれ $30^\circ$ になるね。

だったら、 $\angle B$ のところも、○と×の和は $30^\circ$ になるね。

そうか。 $\angle B = 90^\circ$ だから、○と×を引いて $\angle EBF = 60^\circ$ なんだね。理由は何となくわかったけど、証明を書くのは難しいなあ…

※動画で題意を分かりやすくする

POINT！ 次の2つの証明AとBを比べながら読み、分かりにくいところや改善点について班で話し合しましょう。

**【証明A】**  
 $\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は $180^\circ$ で、 $\angle EAB = 150^\circ$ であるから、 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$   
 $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$   
 だから、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ \dots$

**【証明B】**  
 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle AEB = \angle CBF \dots$ ①  
 $\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は $180^\circ$ であるから、 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ \dots$ ②  
 ①、②より  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ \dots$

Aの証明は「だから…」のところがよく分からない。

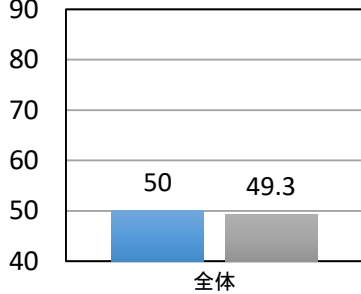
$\angle CBF = \angle AEB$ について書くともっとよくなるね。

証明Bは $\angle CBF = \angle AEB$ が書いているけど、他のところはどうか。

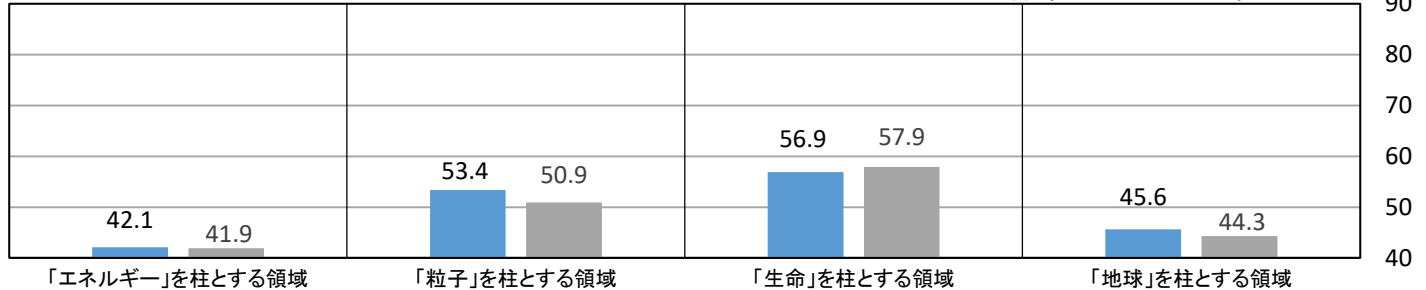
証明の問題は無解答率が高い傾向にあります。（本市40.2% 全国38.5%）  
 証明の方針や書き方について話し合わせることで、考えの筋道の立て方を身に付けさせましょう。

調査結果

平均正答率（%）



学習指導要領の領域等の平均正答率（%）



分析Ⅰ

力のはたらき 本調査問題5(1)

静止している物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力について説明することに課題がみられる。【知識・技能】  
正答率 17.2% (全国15.3%)

◆考察◆

力のはたらきの学習では、力は大きさや向きによって表せることや物体にはたらく2力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明させることは大切である。指導に当たっては、身の回りの静止している物体をタブレット端末で撮影し、その物体にはたらく力を矢印で表し、力のつり合いについて互いに説明し合うなどの学習活動が考えられる。

授業アイデア例

身の回りの物をタブレット端末で撮影し、力のつり合いについて矢印を書きこみ、説明しましょう。



（めあて）身の回りにある物の力のつり合いについて説明しよう

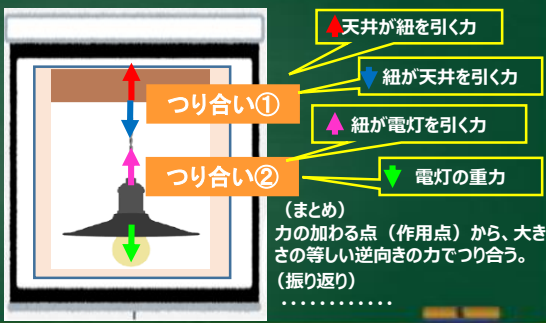
（課題）どのような力でつり合っているか

<両チームが引き合い動かない状態>



矢印を書くと...

- <2つの力がつり合う時の関係>
- ① 2つの力の向きは、反対
  - ② 2つの力は、大きさが等しい
  - ③ 2つの力は一直線上にある



ピンクと青の矢印は、同じ方向に向き合っているのは、なぜ？

青の矢印は、赤の矢印に対して、ピンクの矢印は緑の矢印に対してつり合っていると思うよ。

1つの物体に対し、つり合いの矢印は2本だけじゃないものもあるんだね。

この4本の矢印はどのような力でつり合っているのでしょうか？

つり合い②は、緑の矢印は電灯の重力で、ピンクの矢印は紐が電灯を引く力で表していると思うよ。

力のはたらく向きがどこから（作用点）か考えると、つり合い①も説明できそう。

身近な物体の力のつり合いについて、具体的に説明し合う中で、その力について比較・検討しながら、自分の生活と関連させた学びを充実させていきましょう。

分析Ⅱ

力のはたらき 本調査問題5(3)

実験結果に対する考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題がある。【思考・判断・表現】  
無解答率 30.4% (全国29.4%)

◆考察◆

身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるためには、実験結果について振り返り、実験の計画を検討し改善させることが大切である。指導に当たっては、ばねに力を加える実験を行う際、測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない学習場面を設定し、生徒自身が主体的に問題解決に向えるよう工夫する必要がある。

授業アイデア例

Point! 実験方法の改善点について具体的な視点を明確にして考えることが大事です。

では、どのように実験をすればよいのでしょうか。

【問題】ばねに加わる力の大きさとばねの伸びは、どのような関係か。

どの様な関係があるのでしょうか？

比例のような関係があるんじゃないかな。

力の大きさとばねの伸びの関係を調べるにはどのような実験を行えばよいかな。

ばねにつるすおもりの数を増やしながらばねの伸びをはかればよいと思う。

ここに実験結果があります。どのような関係が見られるでしょうか。

おもり1個が20gだから0.2Nずつ測定した方がいいんじゃないかな。

測定回数が少ないとわからないね、3Nまで測定の範囲を広げて測定しよう。

1本のばねだけでなく、強さの違うばねについても、同じ大きさの力で調べることも必要だな。

測定回数が多くなると、関係を捉えやすいね。

<話し合っ考えた実験の改善方法(視点)>

- ・0.2Nずつ測定していく(測定回数)
- ・測定範囲を3Nまで広げる(測定範囲)
- ・強さの違うばねも実験し、グラフにする(共通性)

他の班でも同じように実験して、結果を比較すると、共通する関係を見つけられるね。

どの班のグラフも、比例の関係とさえうだね。

本調査問題2(3)のように、他の学習内容においても、実験計画を検討し、改善する学習活動は可能です。このような学習場面が「評価の観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」にも生かされます。

グラフの例示

測定値をつなぐと曲線になるから比例ではないのかもしれない。

ばくは、比例の関係になりそうと思うけど...4回しか測定してないから、比例だと言い切れないな。

妥当性の検証

実験の検討改善

実験考察

問題の結論



## ○関心・意欲・態度(国語、算数) 【児童質問紙 質問番号:49・51・53・55】

国語について、「好きですか」「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は、61.7%、85.5%で全国平均を上回っている。また、算数について、「好きですか」「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は、64.3%、82.0%で全国平均を上回っている。今後とも児童が学習に興味や関心をもてる教材の工夫や授業づくりの改善を行うとともに、習熟度別指導や少人数指導、個別指導等、個に応じた指導の一層の充実が必要である。

## ○学習時間等 【児童質問紙 質問番号:20・21・23】

家庭での平日の学習時間は、1時間以上が65.2%で全国平均を5.8%上回っている。自分で計画を立てて勉強している児童の割合は72.4%であり、全国平均を上回っている。また、読書について、授業時間以外の平日の読書時間が1時間以上の割合は概ね全国平均と同じだが、読書を「全くしない」と回答している児童の割合が26.0%であることから、引き続き、学校図書館等を活用し、読書の楽しさを伝えることが必要である。

## ○学校生活 【児童質問紙 質問番号:16・18】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は85.4%と高く、全国平均と同等である。また、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答をした児童の割合は92.9%と高く、概ね全国平均となっており、学校生活の充実が窺える。今後も、児童にとって充実した学校行事や学級活動になるよう努めることが必要である。

## ○基本的な生活習慣、社会に対する興味・関心 【児童質問紙 質問番号:2・3・29】

基本的な生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は91.8%と全国平均の90.4%を上回っており、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合は83.5%と全国平均の81.5%を上回っている。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合は54.1%と全国平均の52.7%を上回っており、児童の地域社会に対する関心が高まっていることが窺える。今後も、学校、家庭、地域社会が一層連携・協力して、子どもの基本的な生活習慣の確立に努めることが必要である。

## ○自尊感情、規範意識 【児童質問紙 質問番号:4・7・9・13】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は79.8%、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は80.2%と全国平均を上回っている。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は72.2%と概ね全国平均となっている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対しては、97.5%であり、全国平均を上回っている。今後とも、学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ、道徳教育に係る学校や学年の指導の重点の明確化、教材の充実、体験活動の推進など、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実に努めることが必要である。

## ○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【児童質問紙 質問番号:39・43】

「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は77.3%と概ね全国平均となっている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は77.1%と、昨年度の結果は上回っているものの本年度も全国平均を下回っている。今後は、質の高い授業の創造に向け、本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

## ○校種間連携、社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号:69・70・71・73】

小学校と中学校の連携について、「前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は77.7%と全国平均の54.2%を大きく上回っている。同様に、「教育課程における目標設定等の共通の取組」や「全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有」についての質問も肯定的な回答が94.5%、66.7%と、全国平均を大きく上回っている。小中一貫教育の取組の成果が表れている。今後も、子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、72.2%と全国の82.0%を下回っていることから、より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

## ○授業におけるタブレットの使用 【児童質問紙 質問番号:34・36】

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は94.6%で全国を上回っている。しかし、「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問に対しては、週3回以上が18.8%で全国の22.5%を下回っている。今後は授業における更なるICT機器の活用を進め、個に応じた学習の充実に努めていく必要がある。

## ○関心・意欲・態度（国語、数学、理科） 【生徒質問紙 質問番号：49・51・53・61・55・63】

国語、数学、理科の各教科について、「好きですか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は3教科とも全国平均を上回っている。「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は国語、数学の2教科が全国平均を下回っている。今後は、生徒が学習に興味や関心が持てる教材の工夫や授業の改善を行うとともに、習熟度別指導や少人数指導、個別指導等を通して、個に応じた指導の充実が必要である。

## ○学習時間等 【生徒質問紙 質問番号：20・21・23】

家庭での平日の学習時間は、平日1時間以上が86.3%で全国平均を大きく上回っている。家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合は59.3%であり、全国平均を上回っている。また、読書については、授業時間以外の平日の読書時間は概ね全国平均であるが、読書を「全くしない」と回答している生徒が49.0%で、これは全国平均より10.0%下回っている。引き続き、学校図書館等を活用し、読書の楽しさを伝えることが必要である。

## ○学校生活 【生徒質問紙 質問番号：16・18】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は84.2%、「友達と協力するのは楽しいですか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は94.2%と全国平均を上回っており、学校生活の充実が窺える。今後も、生徒にとって充実した学校行事や学級活動になるよう努めることが必要である。

## ○基本的な生活習慣、社会に対する興味・関心 【生徒質問紙 質問番号：2・3・30】

基本的な生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は80.9%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は93.9%と概ね全国平均となっている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした生徒の割合は42.7%で全国平均を上回っている。今後は、学校、家庭、地域社会が一層連携・協力して、生徒の基本的な生活習慣の確立及び社会に対する興味・関心の向上に努めることが必要である。

## ○自尊感情、規範意識 【生徒質問紙 質問番号：4・7・9・13】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は79.9%と、全国平均を上回っている。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合も70.0%と全国を上回っている。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ67.7%、97.3%と概ね全国平均となっている。今後も学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ、道徳教育に係る学校や学年の指導の重点の明確化、教材の充実、体験活動の推進など、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実に努めることが必要である。

## ○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【生徒質問紙 質問番号：39・43】

「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は78.6%と全国平均の79.2%を下回っている。「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対しても、肯定的な回答をした生徒の割合は78.2%と全国平均の78.7%を下回っている。今後は、質の高い授業の創造に向け、本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

## ○校種間連携、社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号：67・68・71】

小学校と中学校の連携について、「前年度までに、近隣等の小学校と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした学校の割合は75.0%と全国平均の58.0%を大きく上回っている。同様に、教育課程における目標設定等の共通の取組や全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有についての質問も全国平均を大きく上回っていることから、小中一貫教育の取組の成果が確実に表れている。今後は、子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また、「教育課程の趣旨について、家族や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問では、全国平均の79.7%に対し、本市は64.2%と下回っていることから、より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

## ○授業におけるタブレットの使用 【生徒質問紙 質問番号：34・36】

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は94.2%で全国を上回っている。しかし、「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問に対しては、週3回以上が16%で概ね全国平均となっている。今後は「授業中に自分で調べる場面」「学級の生徒と意見を交換する場面」「自分の考えをまとめ発表する場面」における更なるICT機器の活用と、個に応じた学習の対応等を進めていく必要がある。